



3月8日(月)

換気機能を備えた マイクロボス導入

バス室内換気と乗客分散で感染リスク減

新

型コロナウイルス感染拡大を防止するため、国の交付金で購入した高性能の換気機能付き小型バスが3月8日(月)、納車されました。

このバスを製造した三菱ふそうトラック・バス株式会社によると、どれくらいの時間で車内の空気が入れ替わるか実験したところ、換気扇を切って停止した状態で5分、走行状態では3分で換気が完了したということです。

このバスで室内の密閉状態の防止、乗客の分散化が可能になり、感染リスクを減らすことができます。

今後、住民団体等の研修や通学用バスとして活用する予定です。



▲3～5分で室内の空気を入れ替えることができる換気機能付き小型バス

3月10日(水)

日光地区協議会が 地域貢献賞を受賞

「日本海新聞ふるさと大賞2020」

伯耆町の部 表彰式

日

光地区協議会が、地域の発展に寄与した個人・団体に贈られる「日本海新聞ふるさと大賞2020」伯耆町の部を受賞し、伯耆町役場で3月10日(水)、表彰式が行われました。

日光地区協議会は、同地区の少子高齢化と農地荒廃を解消するため、地域の活性化を目的としたさまざまな取り組みをしています。

大山日光清流まつり・野菜収穫交流事業・添谷築校祭など、地区の魅力を発信するイベントの開催をはじめ、平成21年から米子市義方地区の公民館祭で日光地区の農産物を販売したり、両地区の小学生らの交流を深めるため「ゴズ釣り交流会」を開催したりなど、他地域との交流にも努めています。

同会会長の木村修司さんは「長年取り組んできた成果を評価していただきうれしいです。これからも地域の活性化のために、いろいろな策をこらしたいです。」と話しました。



▲地域貢献賞を受賞した日光地区協議会(写真前列)

3月12日(金)

コロナ禍過ぎした3年生 巣立ちの日

町内中学校で卒業式

町

内の2中学校で3月12日(金)、卒業式が行われました。このうち溝口中学校では、24人の生徒が新たな門出を迎えました。

中学校生活最後の1年をコロナ禍で過ごした今年の卒業生は、修学旅行や部活動の集大成となる大会・コンクール等が中止になるなど、悔しい思いをたくさんしました。

卒業生代表の光木侑菜^{ゆきな}さんは、これらの経験を「3年間の頑張りが否定されたようで辛かった」と振り返りながらも、「最後となる文化祭の合唱コンクールで、クラスみんなの心が一つになり、本番でいけばよい合唱ができた。みんなで作りがあげることができたことがうれしかった」と答辞を述べました。

卒業生たちは式の後、慣れ親しんだ教室に戻り、最後のホームルームを受けました。担任の先生から温かいメッセージとともに一人ひとり卒業証書が手渡され、涙する生徒もいました。



▲最後のホームルームで、クラスメイトに「高校に行っても元気で」などメッセージを贈り合いました